

**月例会ダイジェスト【102】**

ウクライナから日本に避難し、在留しているウクライナ人は、現在2,000人以上に上ることが法務省より発表されている。言葉はもちろん文化も全く異なるこの日本で心身に不調をきたしたとき、彼らはスムーズに医療が受けられるのだろうか。第300回を迎えた6月の月例会は「ウクライナ避難医師の活動等」と題し、在留ウクライナ人への医療相談プロジェクトに携わる医療職を招き、その活動について語ってもらう場となった。コーディネーターは福田洋氏（順天堂大学）、小島健一氏（鳥飼総合法律事務所）が務め、ハイブリッドで開催した。

最初に森博威氏（順天堂大学）が登場。森氏が所属する総合診療科で、在留ウクライナ人への医療相談プロジェクトが立ち上げられた経緯を説明した。

順天堂大学では、2022年6月からウクライナの学生・研修医・研究者の受け入れを開始。「社会的なポジションを得て、その活動にやりがいを見いだしていくことが、日本で生活する上で一つの大きな柱となる」という森氏は、この制度によって同大学に来ることになった医師のドミトロ・レメズ氏とダリア・クロクワ氏（クロクワ氏はビデオメッセージで登場）を特別助手として雇用することを大学側に提案した。森氏も関わっている「国際医療人養成プログラム」（日本で医師免許取得を目指す外国人医師を対象にした養成プログラム）をはじめ、さまざまな国際交流プログラムを実施している同大学において、英語を話せる医療職の存在が必要であること、両氏がそのニーズにマッチした人材であり、何より「信頼して一緒に仕事ができる」という森氏の推薦もあり、両氏の雇用が実現したことを語った。

「この医療相談プロジェクトは、日本の医師免許を持っていない2人が、病院で臨床にどう関わっていくかを考える中で浮かんできた」と森氏は説明。「日本の医療制度上、一次医療を提供する位置付けになっていない大学病院が、言葉の問題等で地域医療にアプローチできないウクライナの人々を支援する糸口になるのではないかと」と話した。

続いて、ドミトロ・レメズ氏が同プロジェクトの具体的な枠組みを紹介した。相談者は、順天堂医院がウェブで開設した在留ウクライナ人向け医療相談ページのフォームから必要事項を入力して送信すること、その後はメールのやり取りを通じて相談者の困り事をサマライズしな

から対策を検討することや、診察が必要と判断された場合は、総合診療科の受診を案内する（状況に応じて、ほかの医療機関を紹介する）といった流れを説明した。

受診に訪れたウクライナ人を院内でサポートしているレメズ氏は「診察申込書には日本語しか記載されておらず、ウクライナの人にとっては難易度がかかなり高い」と指摘。また、月々の保険料に加え、会計時にも診察料を払わなくてはいけない日本の医療保険制度や、処方箋がないと薬が買えないというシステムに、ウクライナの人々が戸惑ってしまうなどの問題も挙げた。

森氏は診察における課題として「年配者は英語が話せない人が多いが、問題はそれだけではない」と、言語以上に医療文化の違いが大きいことにも言及。例えばハーブ治療が日常的に浸透しているウクライナの人々に対し、日本の医療概念をもとに治療の話をしてなかなか理解されないなど、健康と医療の考え方のズレが診察に影響していることを明かした。

レメズ氏は、今後の課題として首都圏以外の地域も含め、英語対応が可能な医療機関のネットワークを構築していく必要があることなどを挙げた。森氏は「日本と海外との医療文化や制度の違いについて、これまで日本の医師はあまり意識していなかった。このプロジェクトには、日本の医療機関が外国人に医療を提供していく上で問題点が凝縮されていると思う」と総括した。

トークセッションでは、「このプロジェクトで得られた知見を公開する予定はあるか」という質問が挙がった。森氏は「今は仕組みづくりをしている段階で、まだ外部に広く共有できる状態ではないと考えている。しかし、今日お話ししたようにドミトロ先生もダリア先生も、日々悩みながらウクライナの人々を支援していて、その悩みだけでも皆さんに共有していただけたことに、十分な価値があると考えている」と回答した。最後はレメズ氏が日本の支援に対する謝辞を述べ「日本もウクライナも、ともに戦争で甚大な被害を受けたという共通点がある。武力を使うことなく、対話を重ねながら平和な社会と一緒に作れることを願っている」とあいさつ。会場からは大きな拍手が湧いた。

日本で生活する外国人の数が増えている昨今、医療を提供する側も、医療制度や文化の違いを意識しておく必要があるという貴重な示唆が得られた月例会となった。

さんぽ会の詳細は下記サイトをご覧ください。

- ホームページ <http://sanpokai.umin.jp>
- FB ページ <http://www.facebook.com/sanpokai>